

小山町立きたごうこども園評価「自己評価書」

1 小山町立こども園 教育・保育目標

「金太郎のように心豊かでたくましい子」
 かんがえる子 やさしい子 げんきな子

2 園重点目標及び具体的方策

園重点目標 「自ら遊び、学べる子の育成」

具体的方策

- ・ 子どもの主体性及び自立性を育む教育・保育を基本とし、「生きる力の基礎」を培えるような保育を心がける。
- ・ 乳幼児一人一人の思いに寄り添い、応答的対話的なやり取りをする中で、その子なりの特性や発達する姿を保障する。
- ・ 身近な人や物・事とのかかわりを大切に、直接体験をとおした創意ある保育を展開する。
- ・ 幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した保育の展開や振り返りの積み重ねをし、発達や学びの連続性を図る。
- ・ 園児・保護者・保育者（職員）・地域（小中学校を含む）との連携を図り、教育効果を高める。

3 項目別評価

評価項目	項目別評価	評価の理由	職員アンケート結果	保護者アンケート結果
園目標・教育目標	B	園目標や重点目標を意識した保育が十分ではなかったという反省があった。	B	A
保育計画・教育課程	B	園児の実態に合わせた指導計画を作成しているが、共通理解の共有に課題が挙げられた。	B	A
保育指導	B	子どもからの発信はあるが、それを行動につなげる力と環境構成の課題が挙げられた。	B	A
研修	B	園内研修では、定期的にカンファレンスや園内公開を行い語り合いができたが、もっと深めていきたいという課題もあった。	B	/

特別支援教育	B	各クラスでの話し合いや支援方法共有はできたが、園全体での共有する時間の確保が難しく、課題となる。	B	
安全管理	B	今年度、避難訓練が担当制としたことで職員の意識が高まった。朝の安全点検はしっかりとできたが、月2回の安全点検が予定通り実施できないことがあった。	B	A
保健管理・食事	B	全園児の健康情報の共有ができた。しっかりと意識をもつことができた。食事面でも、アレルギー食の対応の園児に対して、職員同士で声を掛け合いながら確実な対応ができた。ロゴチャットでの共有が有効であった。	A	A
組織運営・情報管理	B	職員間で声を掛け、手薄な時にはサポートし合いながら、連携を図ることができた。	B	A
保護者・地域との連携	B	保護者への発信はコドモンで積極的にできた。園と家庭との繋がりを深めながら共有を図った。	B	B
施設・設備	B	園内で破損した個所は迅速に対応し、修繕をしてもらった。自分たちも日々の環境整備を行うとともに朝の点検も意識してできた。	B	A

- (注) 1 評価表示方法「A：十分達成されている、B：達成されている、C：取り組まれているが、成果が十分ではない、D：取組が不十分である」
- 2 「職員アンケート結果」は、項目別評価用アンケートを集計したものである。
- 3 「保護者アンケート結果」は、項目別評価用アンケートのうち「わからない」と回答したものを除いて集計したものである。
- 4 「項目別評価」は、「職員による評価」及び「保護者による評価」をもとに、職員で話し合って決定したものである。

4 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
特別支援教育	一人一人の特性を把握し、支援方法など共有し、園全体で取り組んでいく。経験に差もあるが共に学びながら、特別支援に携わる力を高めていきたい。
安全管理	月2回の安全点検の課題を踏まえて、全体周知を徹底する方法を模索し、保育に追われる中でも行えるようにしていく。 給食への異物混入を防ぐ対策を実行し、安全な給食の提供を徹底していく。

組織運営・情報管理	職員の仕事の分担や事務を行う時間を日々の中で工夫しながら、より良い方法を模索する。情報管理についても職員の意識を高めていけるようにしたい。
保護者・地域との連携	今後も地域の方の力を借りながら、子ども達が様々な経験ができるようにしていきたい。保護者支援として親学を取り入れ子育てについて学ぶ機会を増やし、同じ思いで子育てができるように進めていく。

5 評価全体を通して（総評）

総合評価	評価の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果B判定が多かった。項目によっては、Aに近いものもあったので、それぞれの項目について分析し、どのようなことができるのか職員で検討、考察した結果新たな方法や工夫も見出された。次年度につなげていけるようにしていきたい。 かなりの項目において、情報共有の課題が浮き彫りとなった。職員の人数も多いため、全員でコミュニケーションを図りながら共通理解できるような方法を考えていきたい。保育経験や保育観も様々だが、お互いを尊重しながら、より良い職場環境を目指していきたい。